

## Ⅱ 将来の人口減少等を見据えた改革について

平成30年10月、将来にわたって「持続可能なまち金ケ崎」を構築するために、行政と地域が取り組む改革方針に関する「金ケ崎町自治体経営（行政経営と地域経営）改革大綱」を策定しました。

### 1. 改革の必要性

平成30年12月の町民懇談会では、今後25年間で人口が約3,500人減少するとともに少子高齢化が進む見込みであること。それと同時に、「収入の減少」「公共施設、道路等の更新費用、社会保障費等の支出の増加」が見込まれることを説明しました。

町では、これまで「住みたい町、住んで良かったといえる町」の実現に向けて、医療費助成や子育て環境充実など行政サービスの維持・向上のために、財政調整基金（貯金）を取り崩しながら対応してきました。

しかし、今後は、それだけでは対応不可能であり、これまでと同等の行政サービスの提供は困難となります。このような中、自助・互助・共助・公助のあり方や受益者負担のあり方が今後の課題です。

各年度の予算額及び財政調整基金（貯金）残高の見通しは次のとおりです。

（億円）

	平成30年度 (肉付け後)	平成31年度 (当初)	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
歳入	72.1	82.4	72.4	71.1	72.5	69.0
歳出	78.3	89.3	76.1	72.2	72.6	69.3
不足額	6.2	6.9	3.7	1.2	0.1	0.3
財政調整基金残高	18.3	12.3	8.7	7.5	7.5	7.2

※歳入は、国庫支出金、町債のほか各種目的基金を財源として計上した総額

※不足額に財政調整基金を活用することで歳入歳出総額が同額となるよう組み立て

全体の予算規模が年々縮小の見込みであるとともに、財政調整基金（貯金）残高も減少が続くことが見込まれます。財政調整基金の減少は、経済状況悪化による町税等の減収や災害など不測の事態への対応が困難になります。

### 2. 自治体経営改革について

厳しい財政状況を踏まえ、町では、財源確保を図るため、政策の見直しや事業の見直し、生産性向上等による健全な財政運営に取り組んでいきますが、実行にあたっては、住民とともに考え、取り組んでいくことがより一層大切になります。

<具体的な取組（町民に影響が出るもの）>

#### ◆公共施設等の統廃合等

将来人口、将来収入等を見込んだ場合に、現在の公共施設、道路等をすべて維持管理することは困難となります。

建築後相当の年数が経過している施設等が存在し、維持管理費の増加、大規模修繕等が必要になってくることが想定されることから、長期的視点で、公共施設等に関する調査・検討（更新、長寿命化、廃止など）を始めます。

学校施設や地区センターなど、昭和に建築された公共施設等の老朽化対策が課題となっています。検討にあたっては、公共施設の個別施設計画を策定するとともに、地域等と十分な話し合いを行い、一緒に検討していきます。

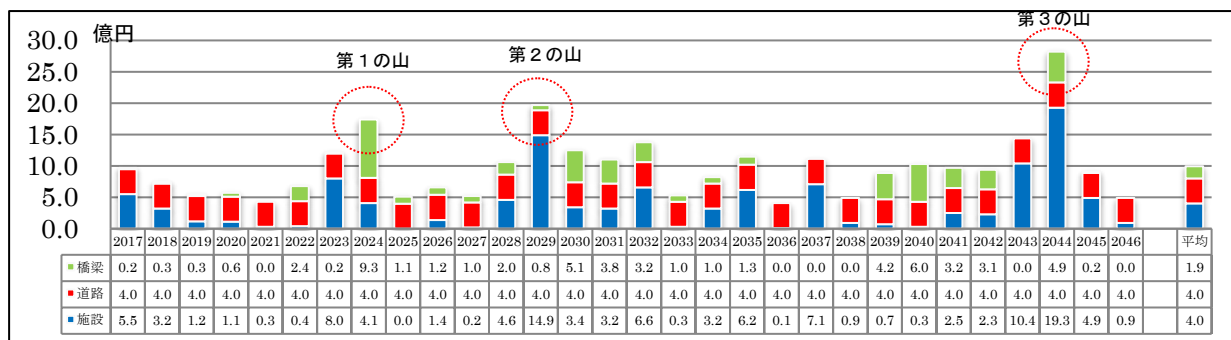


図1 建物・道路・橋梁更新費用の推計

#### ◆上下水道の経営健全化

水道及び下水道（公共下水道、農業集落排水、浄化槽）は、人口減少に伴い使用料が減少します。一方で、千貫石浄水場や終末処理場、管渠などの施設・設備の老朽化に伴う維持管理費及び更新費用が増加します。

町負担と受益者負担のあり方の検討を踏まえ、料金改定が必要となります。

#### ◆補助金・負担金の見直し

財源確保を図るため、補助金・負担金の交付の妥当性、費用対効果を考慮し、必要性が薄れてきたもの、目的を達成したものは廃止を検討します。

### 3. 目指すもの

「人と地域が支えあうまち 金ケ崎～連携と協働のもと、今もこれからも住みたい町、住んで良かったといえる町の実現～」がまちづくりの将来像となります。

財政は厳しくなりますが、将来にわたって「持続可能なまち金ケ崎」を構築するために、今日に責任を持ちながら「将来が明るいまち」を目指すことが大切です。

「将来が明るいまち」を目指し、限られた財源を有効活用し、将来へ向けた投資を行うためには、これまでの延長線ではなく、将来を見据えた改革に取り組むことが必要です。

### 4. その他

#### 『住民主役のみちづくり』

人口減少、少子高齢化が進む中、将来にわたって、安心して幸せに暮らすことができる地域社会を構築するために、住民、行政、各種団体等が共通の目的のもと、それぞれの役割を担いながら、住民が主役となるまちづくりを進めていきます。また、「自分たちの地域は自分たちでつくる」を前提に、地域の将来を考え、地域全体で話し合い、行動していくことがより一層必要となります。

町は、地域だけでは難しい取組を補完していきますし、情報、アイデアの提供などを通じて、住民主役のみちづくりをともに進めていきます。